東日本大震災から 10 年
未来に光を 福島に輝きを

衆議院議員の亀岡よしたみです！昨年より復興副大臣を拝命しました。
東日本大震災から 10 年という月日が経ちます。経験を忘れることなく、
私たちひとりひとりの「復興」の歩みが光輝くものとなるよう
働いて参ります。新型コロナウイルスや地震被害による四重苦を
乗り越える為に活動を進めて参りました。詳細ページをご覧いただき、
この取組を知ってください。そして是非応援してください！

亀岡　偉民
（かめおか・よしたみ）

衆議院議員（4 期）
文部科学副大臣 兼 内閣府副大臣から
現在、『復興副大臣』に就任し
主に、統括業務・「復興五輪」を担当

プロフィール

1955 年（昭和 30 年）9 月 10 日生まれ
妻・2 女 1 男の 5 人家族（孫 1 人）

高校時代　1971 年（昭和 46 年）
作新学院に入学 野球部で江川卓氏とバッテリーを組み 甲子園
2 回出場　オールジャパン高校選抜に江川氏と出場

大学時代　1974 年（昭和 49 年）
早稲田大学に入学 六大学野球で活躍
水島新司氏の人気マンガ「ドカベン」のモデルは亀岡である

東日本大震災からの復興

被災から 10 年を迎えるにあたり⇒２～３P

新型コロナウイルス対策について

抗体薬開発や支援についての活動⇒４～５P

福島大学 世界中の人を集める

福島大学に新設された食農学類
これを機に世界一を目指す⇒６P

台風 19 号の対応

台風 19 号被害はじめ、年々増加
する自然災害への対応⇒７P

子育て・教育について

日本人として誇りの持てる共通の
価値観を養います⇒８P

東日本大震災を振り返る

◆あの日から 10 年。当時を振り返る

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発災し、多くの人々が犠牲となりました。当時議席を失っておりましたが、“ 国民の為に働く政治家 ” として「できることはすべてやろう」と活動する一方で、議員として救助・復興に携われなかった悔しさを現在もいまだ忘れません。当時の混乱や悔しさ、怒りを覚えている方も多いと思います。そういった様々な思いを忘れることなく、今日まで福島の復興のために日々活動を続けて参りました。

復興庁
Reconstruction Agency
新たなステージ　復興・創生へ
東日本大震災
発災 10 年
ポータルサイト

↑復興庁：東日本大震災発災
10 年ポータルサイトにて
当時を振り返る動画を公開しています
https://www.reconstruction.go.jp/10year/

◇災害時の活動記録◇
ホームページ公開の御案内

当時の思いを忘れずに仕事に邁進できるよう、
災害時の記録をホームページ内ブログに書き残し
公開させていただきました。皆様と同じ不安や苦しみ、
悲しさを亀岡代議士も経験しています。
QR コードを読み取り、ご覧いただければ幸いです。

どこに何が足りないかを把握していたので
毎日救援物資を届け続けた

避難所に届く配給が少なく、あたたかい食事がしたいとの要望に応え、炊き出しを毎日続けた

原発事故による突然の避難指示に戸惑う皆様と
一緒に悩み、苦しみ、戦った

一人でも多くの方を救いたい！
立入禁止区域内にて行方不明者の捜索活動

復興をより光輝くものへと

福島県に競技誘致を実現！
（野球・ソフトボール）

五輪会場のあづま球場にて
1 年前イベント「プロ野球 OB フェスタ」開催

福島が復興した姿を全世界へ伝えるには東京オリンピックパラリンピック大会の福島県誘致が絶好の機会と考え、得意分野である野球の誘致を働きかけたところ、関係者の皆様の盛り上がりのおかげで誘致が成功しました。コロナ禍の影響で延期となってしまいましたが、1 年前イベントとして「プロ野球 OB フェスタ in 福島」を五輪会場であるあづま球場で開催し、翌年への希望を繋げることができました。

◆福島県民の人生を変える！「相馬福島道路」全線開通へ！

福島～伊達～相馬を繋ぐ、東北中央自動車道「相馬福島道路」がまもなく全線開通します！
この道路が繋がることにより、各地域の発展、そして様々な相乗効果が期待されています。
福島県の未来が力強く前進します！

2020 年 8 月 2 日に開通した伊達桑折 IC ～桑折 JCT 間

◆再び襲う大きな地震、コロナ禍を含めた 4 重苦から安心した生活、なりわいを取り戻すために日々全力で取り組みます！

2 月 13 日に再び襲った大地震は私たちに
あの記憶を呼び覚ませるものだった

耐え続ける観光業の体力も限界である
政府系金融機関トップに救済を直談判

新型コロナウイルス対策

福島発の技術で「特効薬」の実現に道筋が！

新型コロナウィルス感染症への対策は、人の免疫力が鍵を握っています。そこで重要な役割を果たすのが「抗体」です。予め体に抗体を作り出して感染しにくくするのがワクチンですが、他方、ウィルスへの有効性が確認された抗体を人に投与することで感染予防・治療を行うのがいわゆる「抗体薬」です。新型コロナウイルスに有効な抗体が特定されれば、それが「特効薬」になるのです。

しかしながら、人体に膨大に存在する抗体の中から、新型コロナウイルスに特に有効で、かつ、人体に影響を及ぼさない抗体を特定するのには、技術的に膨大な手間を要すると言われていました。

これに対し、福島県立医科大学で復興事業として開発した技術を基にした「免疫モニターチップ」を用いることで、新型コロナウィルスへの反応が高く、他のタンパク質には反応しにくい抗体の判別を簡便にかつ大量に行えることが確認されました。

福島から世界を救う！「福島亀岡プロジェクト」の展開

今後、福島発の技術を用いて大量の血清サンプルを解析することで、抗体薬として効果を発揮する有望な抗体を抽出し、これを生み出す遺伝子（抗体遺伝子）を特定することができれば、抗体薬の製造ができるようになります。

この実現ため、福島県立医科大学だけではく、広く研究機関、医療機関や製薬会社と連携する体制の下に、以下の取組を推進してきます。

○新型コロナウイルス感染経験者からの血清の収集と解析

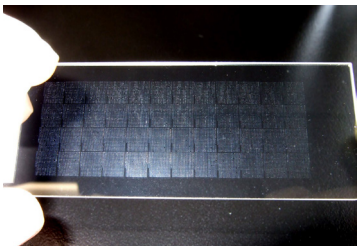
○抗体遺伝子の取得とそこから生産された抗体の性能確認

○必要量を確保できるだけの生産体制の構築

解説 福島発「免疫モニターチップ」とは

細胞の様々な機能は主にタンパク質が担っており、機能の解明にはタンパク質自体を解析する必要があります。ライフサイエンス界が遺伝子情報を扱うゲノム研究全盛の時期にあって、１０年前からタンパク質の重要性に着目した福島県立医科大学の研究を応援してきました。

免疫モニターチップは、復興事業により開発したタンパク質マイクロアレイ技術を基にしています。多数のタンパク質をガラス基板に搭載し、人がもつ抗体がどの種のタンパク質にどの程度反応するかを比較して解析することができます。　この技術は、今般の新型コロナウィルス感染症の対策に貢献できるだけではなく、今後未知のウィルス感染症が蔓延した場合にも、迅速に有効な抗体の特定を行うことが可能とされています。



タンパク質マイクロアレイ
提供：福島県立医科大学

今後起こりうる疫病対策に大きな力を発揮！

私たちの生活・日常を取り戻す！

☜ 実現へ向けての過程はこちらよりご覧いただけます。

取組の詳細、進展はホームページで公開しています。QR コードよりご覧下さい https://www.kameokayoshitami.com/report/mext-state-minister-review10/

新型コロナウイルス あなたが使える緊急支援

QR コードより、ご自身が活用できる緊急支援策をチェックして下さい。

自民党 特設ページ

亀岡コロナ対策特設ページ

◆「心の貧困」を回避するために　「部活動の締めくくり」

令和２年６月４日の副大臣会議にて
各省庁の副大臣にも支援と協力を呼びかけた

甲子園　夏の交流試合の開催の実現

新型コロナウイルス感染症は学校教育に多大な影響を及ぼしたが、同じく部活動への影響も甚大だった。

当時、文部科学大臣だった私は、生徒たち是非とも気持ちを切り替え、部活動に前向きに取り組んでもらうために、３年生の目標となる大会の開催に向けて、各地域の関係者において検討を進めてもらいたいと訴えかけた。

これを支援するため、文部科学省としては、令和２年度２次補正予算において、全国大会の代替となる地方大会について、開催経費を支援するための補助金を計上した結果。各地域でそれぞれのスポーツ競技会が開催され、躍進する生徒の皆さんとともに多くの感動を呼び起こした。
甲子園での交流試合はじめ中学生、高校生の各クラブ活動に区切りがつけられた。決断が大切な場面であった。

発酵醸造学で福島大学を世界一へ

◆福島大学農学群「食農学類」の創設と「発酵醸造研究所」への期待

始まりは「福島に農学部を」

日本有数の農業県であるにも関わらず、かつて福島県には農学系高等教育機関 が存在しなかった。「福島に農学部を」との福島県民の声が食農学類創設の発端である。
東日本大震災前から、中井学長（当時）をはじめ福島大学スタッフ等の関係者 と濃密な議論と検討を重ね、2019 年 4 月、福島県民の念願であった農学系学部 が、
福島大学食農学類として創設された。

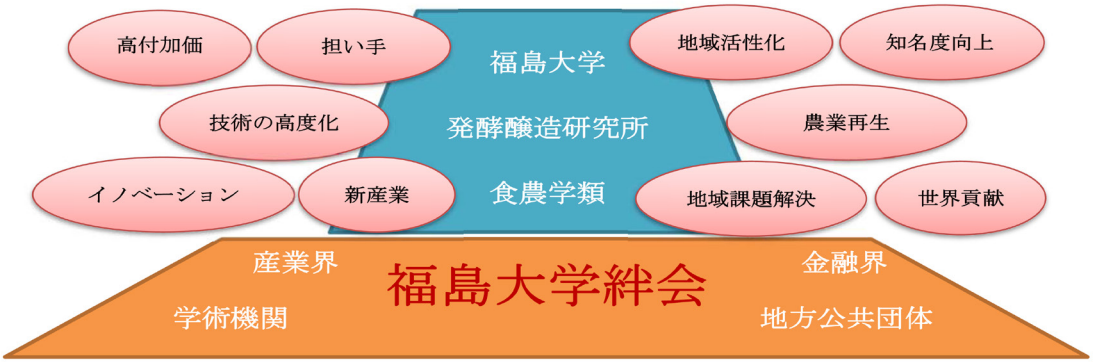
福島農業の再生を

東日本大震災と原子力発電所事故により、福島県の農業は甚大な損害を被り、
そして今もなお風評被害は払拭されきれていない。
福島農業の復興を確実なものとするためには、福島の食と農の未来を担う人材の育成、新時代の食農の創造により経済の発展を生み出すことが望まれる。
そのためには、全県土をキャンパスとした実践的な学びが重要である。また、
学生と地元の方々との交流及び共同研究は、地域の活力を生み出す原動力となる。

福島が目指す世界一、福島が誇る「発行醸造文化」の創造

食農学類の特色は、福島の食農文化を映し出すものでなければならない。福島県には、8 年連続金賞受賞数日本一を誇る日本酒の他、ワイン、味噌・醤油等々、地域に古くから根ざしている発酵醸造文化がある。
「発酵醸造学を学ぶなら福島へ」と言われるような世界的研究拠点を創り出し、
①福島農産品の良さを世界に発信する、
②日本の素晴らしい農業・科学を融合させた「近未来型農業」の創造と世界展開で国際貢献を図る、
③発酵・醸造のスペシャリストを世界に輩出することが福島に大きな実りをもたらしてくれるはずである。

福島大学と綿密に打合せを続けた末実現！
描いた夢を現実化させていく！



←福島大学
発酵醸造研究所
食農学類
産官学連携の
イメージ図

台風１９号・大雨による水害の対応

翌日も氾濫が続き大きな被害を被った梁川町

台風が過ぎる中、電話が鳴りやまなかった。
各自治体の首長からの被害報告の連続だった。翌朝川俣町の避難所に届けてほしいと役場へ食糧を届け、被災状況を改めて確認した。福島市、伊達市、桑折町、国見町、相馬市、南相馬市、飯舘村、新地町の被災現場をまわり国土交通省の緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣し、被災自治体が行う被災状況の把握、被害の発生・拡大防止、早期復旧や応急対策に対する技術的支援実施をはじめ様々な策を講じた。阿武隈川緊急治水プロジェクトにて約 1354 億円の事業費を計上し、さらに第三次補正予算で多くの予算を積み増しし、迅速な復旧工事が進められている。

相馬市１１５号線の被害現場

福島市郷野目地区堤防決壊現場

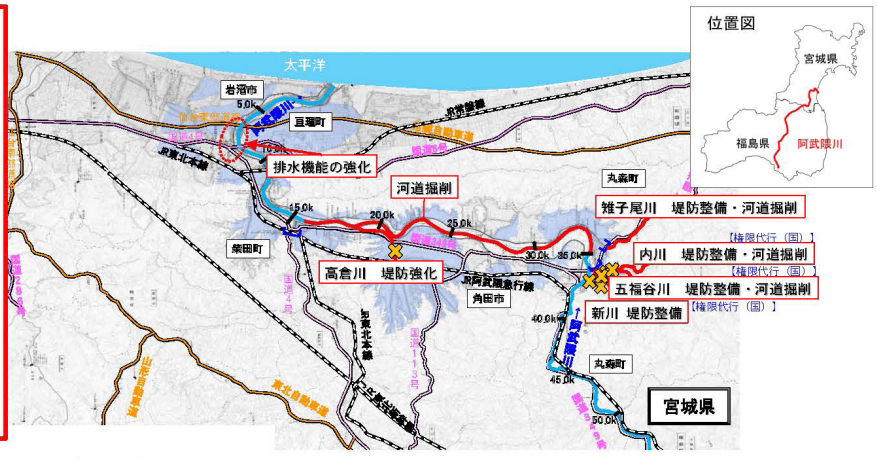
南相馬市の被害現場

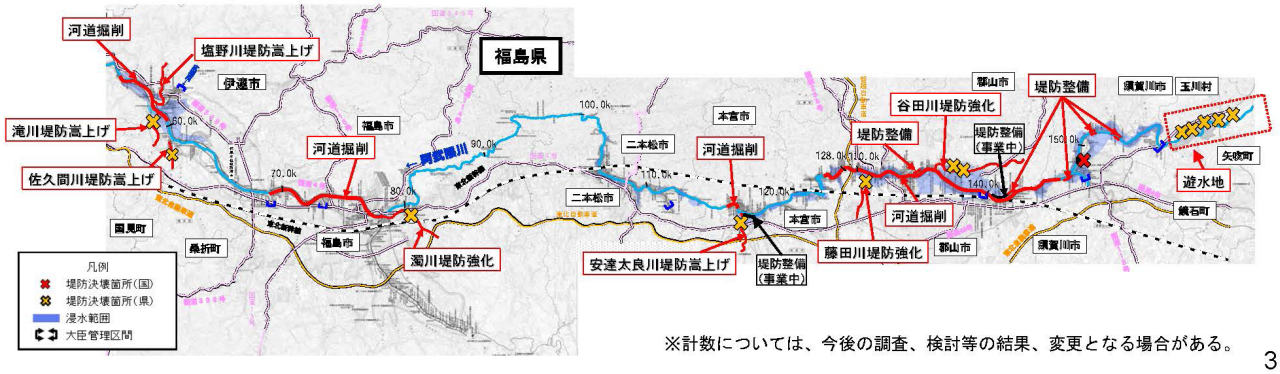
阿武隈川緊急治水対策プロジェクト
～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

■全体事業費　約1，354億円
■事業種別
○河川大規模災害関連事業
　国：阿武隈川上流（福島県内）
　　全体事業費　約999億円
　　事業期間　　令和元年度～令和10年度
　国：阿武隈川下流（宮城県内）
　　全体事業費　約86億円
　　事業期間　　令和元年度～令和6年度
○河川等災害復旧事業
　国：阿武隈川上流（福島県内）
　　全体事業費　約121億円
　　事業期間　　令和元年度～令和2年度
　国：阿武隈川下流（宮城県内）
　　全体事業費　約12億円
　　事業期間　　令和元年度～令和2年度

※県管理河川については、現時点で確定していないため、今後追加となる予定





※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

子育て・教育について

◆幼児教育の無償化の実現

“幼児教育の無償化”は亀岡よしたみがライフワークとして取り組んできました。
平成 18 年の予算委員会分科会の質疑においては、「幼保の一元化により幼稚園に通う子も保育園に通う子も平等な教育を受ける機会を与えてほしい」と強く訴え、平成 26 年から自由民主党文部科学部会長に就任して以降、文部科学を担当する国会対策副委員長、そして文部科学委員長と「幼児教育の無償化と給付型奨学金の創設」へ向けて一貫して担当しついに法案成立・事業化となりました。

国会内で法案説明をする亀岡

◆日本の在るべき姿　私たちが描く未来

教員いじめの問題で TV の討論番組へ出演

近年「豊かさ」とは何かという価値感が変わってきている中で、まさに「教育」が日本において極めて大切な事であります。学校でのいじめをなくすために現場で何ができるかなども日々向き合ってきました。
今後子ども達が「日本人として誇りの持てる共通の価値観」が安心して学べる環境づくりに今後も全力で取り組んで参ります。
この思いにご共感頂き、ご賛同いただければ幸甚に存じます。

亀岡よしたみの **信念**

○「必ずやる」と思わない限り不可能を可能にできない！

○「国民のために必要なこと」の一点に力を結集！

○弊害となる慣例や常識を政治のリーダーシップで突破！

友だち登録を
お願いします！

LINE